

兵高教組
調査情報
 2019年11月21日 20号

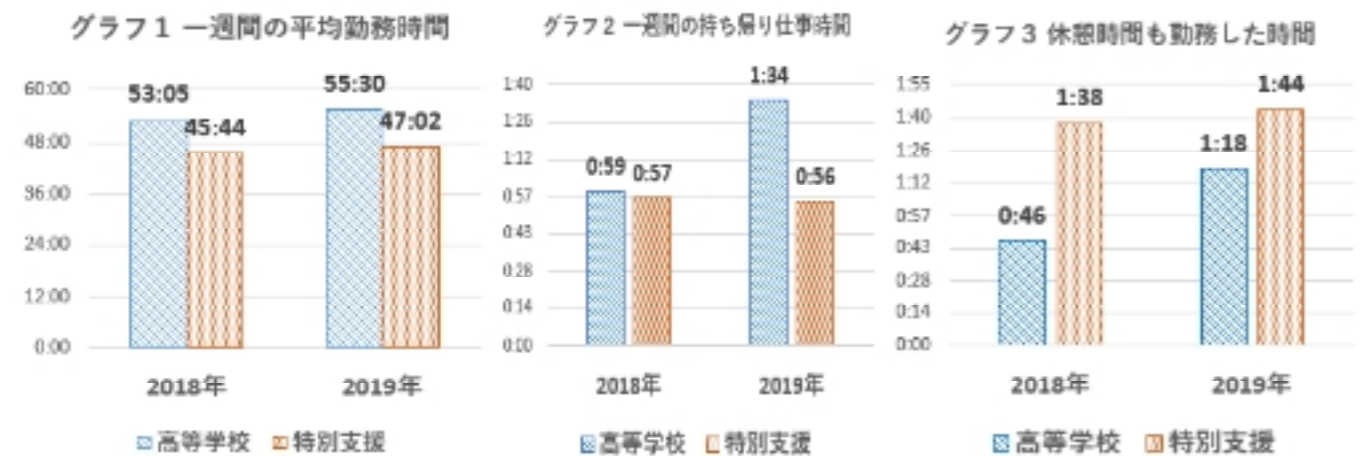
兵庫県高等学校教職員組合調査部
 TEL : 078-341-6745
 FAX : 078-351-3185
 URL : http://www.hyogo-kokyoso.com
 mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

高教組超過勤務実態調査より

超勤時間 昨年より高校(2時間24分) 特別支援(1時間18分)増

超勤解消の方策は、一人あたりの業務を減らし、人を増やすこと!

高教組は、夏季休業中を除く6月～9月のうち、連続する7日間の超過勤務の実態を調査しました。調査結果からは、1週間当たりの超過勤務時間は、表題の通り解消されるどころか悪化している状況が明らかとなりました。調査の自由記載欄には、持ち時間の軽減をのぞむ声や、超勤実態に見合う手当の支給を求める声や、人を増やして欲しいなどの声が多くありました。



高校の超勤の原因は、今年も「部活動」「分掌業務」「授業・授業準備」

今回の調査では、高校教員の1週間あたりの勤務時間は55時間30分と昨年より2時間24分増え(グラフ1)、その他に持ち帰り仕事の時間も昨年度より35分増えた1時間34分となっています(グラフ2)。

回答者にとって超過勤務の主な原因となる業務を、選択肢の中から3つ選択してもらった結果がグラフ4です。1位「部活動」65.3%(前年61.4%)、2位「分掌業務」53.3%(54.0%)、3位「授業・授業準備」50.0%(49.4%)となっており、前年度と順位も変わらず、割合もほぼ同じです。

勤務の状況について自由記載欄に、「部活動指導の時間が、普通に勤務時間を越えているのはおかしい。」
 「クラブ、出張、業者模試で例えばこの3週間は連続して週の1日しか休んでいません。その1日は4～5時間は持ち帰り仕事です。」

「部活動をなくしてほしい。教科のこともして担任の業務をこなすことが大変」
 「担任に付随する事務処理で放課後30分～50分程使う…他の先生には頼みにくい…そうやっている内にやるべきことがどんどん後ろにくいこみ夜6:00すぎてやっと自分の仕事をじっくりできるようになり帰りはどうしても7:00～8:00です。」

「部活で土日休みがなく、約3週間、1日も休日がない状態で辛い。自分の子どもとかかわる時間や健康を保つための休息が必要。」などの声がありました。

また、調査からは、休日(週休日および祝日)の出勤数が「0.9」日と集計結果が出ており、高校では週休二日制のうち多くの方が一日は出勤を余儀なくされている状況も明らかとなっています。模試監督などの業務に携わった方もおられると思われそうですが、休日にも「部活動」「授業準備」に時間が取られていることが、事由記

載欄にみられます。また、こんな声もあります。「超勤はありませんが(育児のため)、その分、持ち帰り仕事が多くなっています。土日ほぼ自宅で仕事をしている状態です。」

部活動に多くの時間を取られ、結果的に授業や担任の業務にも支障をきたすことや、休日出勤への辛さなど昨年度と表現は異なるものの、全く改善されていません。対策としては、「とにかく持ち時間数が多い。人が足りない。一人で3役も4役もこなさなくてはならず、本来時間をかけるべき授業準備や生徒対応が十分にできない。」

「学校に求められる役割が増える中、いじめや心の問題、性の問題、家庭の問題、SNSへの対応等、教師のキャパをゆうに超えている。人員の増加や部活動の外部人材の活用を。」
 「部活を正式な業務だというなら、4号業務手当以外にも休日割増賃金を支給してもらいた

特別支援学校では、休憩時間に「授業・授業準備」「分掌業務」が常態化

特別支援学校では、一週間で休憩時間にも1時間44分も勤務しています(グラフ3)。

休憩時間が確保できない主な理由(グラフ5)では、1位「授業・授業準備」44.7%(昨年度43.5%)、2位「分掌業務」40.0%(35.3%)となっています。多くの特別支援学校は、昼は給食指導があるため、児童生徒の下校後に休憩時間としています。しかし、それでも休憩時間が確保できない状況にあります。

「確実に休憩が取れる体制作りをしてほしい。」
 「障害の多様化による生徒の見守り時間が増加している。教員定数増加を。」

「職員の数が少ないので体調が悪くても休めません」と人員不足による課題が明確になっています。

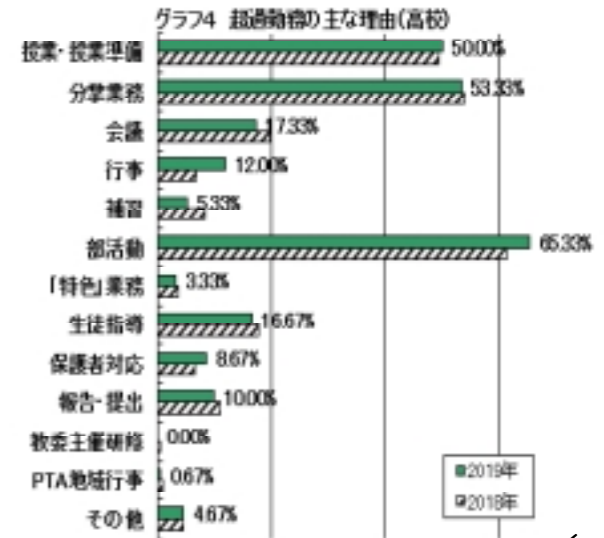
勤務の割振り・代休は取れない

業務によっては割振り、代休が取得できますが、現実にはそうではありません。

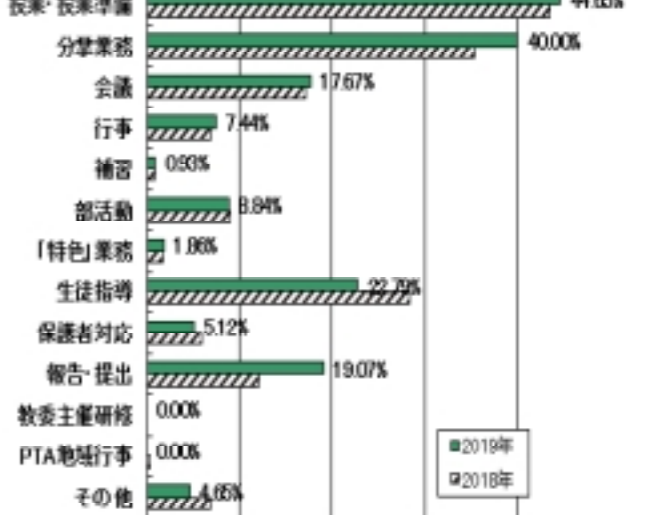
「割り振りを取れば、別の日に長い超過勤務に」「(割振りを)印を押すだけにされている」という現状や、割振りが取りにくいことを訴える方が多くおられました。制度はあっても、活用できない環境が再認されました。その結果、「管理職はお金が発生しないから、何もする気が無い。」
 「諦めています。」

と管理職不信や士気の低下を招いています。

い。あんな安価な手当でだけで生徒の命を預かるのはフェアではない。」



特別支援学校では、休憩時間が確保できない主な理由(特別支援学校)



超勤解消は人を増やすしかない

調査には以下の回答がありました。「5時になったら当たり前前に帰れる雰囲気にして欲しい。」

「業務補助ではなく教員を増やして欲しい。」

11月14日の第3回県教委交渉では、教育次長は、定数改善について「国に要請をする」と発言していますが、県教委としての新たな対策は示していません。

高教組は、この調査結果も基に、超勤解消を強く求めて交渉に臨みます。

「超過勤務実態調査」にご協力頂いた皆さん、ありがとうございました。

あなたも高教組に入って、超勤解消について共に考えていきませんか?